

授業科目	法哲学演習
演習題目	現代法哲学文献講読
担当教員	福原 明雄
授業の目的	現代における法のあり様やあるべき姿について、広く法哲学関連文献の検討を通して理解を深める。
履修条件	適宜フォローアップなどするが、法哲学（法理学）講義を履修済み、または同時に履修することが望ましい。
教科書・参考書	<p>2026年度は浦山聖子『国際移動の正義』と横濱竜也『移民／難民の法哲学』を中心に、移民にまつわる問題を法・政治哲学的な視角から議論する予定である。</p> <p>【参考】近年に取り上げた書籍  2025年：M・ウォルツァー『まっとうな政治を求めて』、瀧川裕英『国家の哲学』  2024年：S・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』、野崎綾子『正義・家族・法の構造変換』  2023年：R・セイラー&amp;C・R・サンステイン『Nudge 完全版』、M・ウォルツァー『正義の領分』</p>
授業の計画・内容	<p>移民に関する議論はわが国でも様々な形で噴出しているが、決して冷静なものばかりではない（寧ろ、まれである）。それは天下国家（どころか地球規模）のことから自分の生活世界・隣人のことまで、さまざまな縮尺の問題が複雑に絡み合うからである。本演習では、主に法哲学者の手による移民論を通じて、この問題を腰を据えて論じることを試みる。</p> <p>-----</p> <p>内容理解と議論が本演習の眼目である。  正確にテキストを読み理解を共有すること、生じた疑問を適切に構成して質問すること、その質問に適切な応答をすること、という一連の作法を身に付けることを目指す。</p> <p>・ゼミの進め方  ① 各回担当の報告者がレジюмеで担当箇所の要約と、これに対する考察・検討を報告する  ② 報告を受けて参加者全員で議論する</p> <p>※注意事項※  流れによって講義時間を延長する場合がある。  無断で担当報告を欠席した場合、単位認定しない。  懇親会・イベントの企画は学生が積極的に行って良い（歓迎する）。</p>
成績評価の方法	① 担当回の報告（必須） ② 発言などによる授業への貢献度